

2006.05.31.

## ア 事件の概要と出動

### 概要

県立光高校で3年生がクラスに爆発物を投げ込み、怪我などで58人が救急搬送されました。県教委の依頼で11人の隊員を派遣しました（初出動1人）。金・土・月の3日間活動しました。全国のマスコミが殺到し、連日トップニュースで流れました。

### 出動 6月10日（金）

10:50 県教委より河野所長へ第1報。続いて、CRT情報センターへ派遣依頼。

**第8回派遣隊員11人** 隊長、副隊長以外の隊員の氏名や所属は公表しておりません

#### 1) 指揮担当隊員 3人

隊長 河野通英（かわのみちひで） 精神科医／山口県精神保健福祉センター所長

副隊長 稲野靖枝（いなのやすえ） 精神科医／長門一ノ宮病院医長

副隊長 廣岡逸樹（ひろおかいつき） 臨床心理士／山口県精神保健福祉センター主査

#### 2) 直接ケア隊員 4人

臨床心理士2人、精神保健福祉士2人

#### 3) 補助業務隊員 4人

補助業務隊員は隊員のサポートをする隊員です。

## イ 活動メニュー項目別解説

### ①評価とケアプラン策定の手助け

①は校長や教育委員会管理職への助言、サポートの内容です。主に指揮担当隊員（隊長）の役割です。

#### [1]危機対応態勢と計画

- 情報管理について助言。
- 学校のダメージを評価。
- CRTは背景の問題は扱わないが、子どもへの調査は6週間待つように助言。
- 県教委に、必要な人員や役割分担を助言。
- 職員会議や学年会議等へ出席して助言。
- 保健所や保健センターへの協力要請を進言。
- 校長や県教委職員へ随時助言。
- 学校行事変更の助言。被害生徒に配慮しつつも、可能な限り日常活動維持を原則に。
- 県教委がスクールカウンセラーを月曜日から派遣（日曜日に打ち合わせ）することになり、臨床心理士会にて計画。

### ②教職員への助言、サポート

①は校長や教育委員会に対してでしたが、②は一般教職員への助言、サポートです。

#### (1)被害把握と心のケア計画

- 教師や養護教諭と一人一人の被害状況等について評価。
- 多くの生徒の状況とケアの状況を把握。

- 養護教諭、教育相談教師と個々の支援方針を協議、ケアを引継。

## (2)心のケア態勢

- 養護教諭や教育相談と連携し、相談態勢を整備。
- 学校医との連携、スクールカウンセラーへの引継。
- 保健所、保健センターとの協働（保健師派遣）。

## (3)教職員への助言、ケア

- 教職員への助言（随時）。
- 教職員のケア（カウンセリング）。

## (4)教職員への心理教育

- 月曜日に教職員のグループワーク（集団セッション）を実施。

## (5)子ども達への伝え方

- クラスで事件のことをどう話すかを担任と協議。
- 学年集会の持ち方を助言（全校集会ではパニックが広がる危険性があるため、各学年別に行うことに）。校長のメッセージについても助言。とにかく短く。
- 学年集会への対応：
  - ・ 学年集会への参加は、生徒自身が決めて良いこととし、参加しない生徒は別室にて、教師や専門家が対応することに。3年生男子1人があらかじめ保健室に。3年生女子1人が学年集会に参加せず、保健室に。1年生女子2人が学年集会に参加せず、保健室に。
  - ・ 学年集会中に気分不良等を訴えた生徒は、保健室で教師や専門家（CRT やスクールカウンセラー）が対応することに。ただし、3学年とも該当者なし。

## (7)活動サポート

- 月曜日にクラス活動サポート（SCとの統合チーム）
  - ・ 午前は3年1組と2組に専門家が入り、学年集会にも同席。
  - ・ 午後は3年生の他のクラスにも専門家が入る。
- 月曜日に保健室等に常駐し、サポート。（SCとの統合チーム）

■表 月曜日の保健室等利用者（午前・午後計）

	保健室			図書室			合計
	男子	女子	保健室計	男子	女子	図書室計	
3年生	4人	12人	16人	8人	22人	30人	46人
2年生	1人	1人	2人				2人
1年生	1人	5人	6人				6人
計	6人	18人	24人	8人	22人	30人	54人

## ③保護者への心理教育

③は集団としての保護者への対応です。指揮担当隊員を中心に行います。

### (1)保護者への伝え方

- 保護者へどう伝えるかを助言。
- 保護者向け文書作成支援。

## (2) 保護者会とPTA

- PTA役員への助言。
- 緊急保護者会（1日目）の持ち方の助言、同席。
- 保護者会での心理教育（症状や対応方法の説明）と質疑応答。  
例）「子どもが話したがっている時はしっかり聞いてあげ、そうでない時は根掘り葉掘り聞かないでください。」
- 保護者会直後の簡単な相談会（3人に対応）。

## ④子どもと保護者への応急対応

④は子どもと保護者への個別対応です。

### (1) 気になるケースへの対応

- 入院中の生徒全員を訪問（金・土）。

■表 病院訪問数

	病院訪問
金曜日	8人
土曜日	3人
計	11人

### (2) 相談態勢

- 希望生徒・保護者への面接（校内）。 ※月曜日はCRTとSCで対応。

■表 生徒と保護者への面接数

	生徒			保護者			合計	電話相談
	男子	女子	生徒計	男子	女子	保護者計		
金曜日	1人		1人	2人	1人	3人	4人	
土曜日	3人		3人	1人		1人	5人	1件
月曜日	3人	6人	9人				9人	
計	7人	6人	13人	3人	1人	4人	18人	1件

- 電話対応は随時。

### 生徒の様子

- 多くの生徒は表面的には落ち着いて見えました。
- 教室や保健室や病院でも、友達と一緒にいるときは、安心感があり、普通にしておれる生徒が多いのですが、一人になると、不安感が出たりするようです。
- 個人面接では、いろんな感じ方を表現して、ある程度話すと、多くの生徒は落ち着いて帰ります。
- 不眠や食欲不振、不安を訴える生徒や、物音への過敏な生徒がいました。

## ⑤その他

⑤はマスコミ対応と、警察との連携・学校安全活動です。指揮担当隊員が支援します。

### (1) マスコミ対応

- マスコミ対応への助言。  
例）「プライバシーに配慮しつつも、出せる情報は積極的に出してください。個別取材は当分の間は避けて、定期的に記者会見を開いてください。こころのケアについてはCRT

から説明します。記者は国民の代表として質問をしているので、誠実に対応してください。」

- マスコミ向け文書（CRTより）作成2回。
- 記者会見同席。3日間で5回の記者会見が行われ、合計8時間同席。こころの専門家の立場からコメント（合計8時間半対応）。
- 加熱取材・報道にならないように、学校に助言。

## (2) 警察との連携と学校安全活動

- 警察との連携をサポート
- 事情聴取等について要請、協議。教職員の現場検証へ同席。
- 発生現場について協議。

### ウ 時系列別概説

6/10 金	6/11 土	6/12 日	6/13 月	6/14 火	6/15 水～	
CRT 11人 10人		精神保健福祉センター	CRT 7人	精神保健福祉センター		} 学校・県教委への助言 } こころのケア
	スクールカウンセラー (引継)		スクールカウンセラー(臨床心理士) 7～8人			

### スクールカウンセラー（臨床心理士）

これほどの事案となると、3日間で区切りをつけることができず、その後の支援へ継ぎ目のない移行が不可欠です。幸い、山口県臨床心理士会が素早い対応をされ、県教委によるスクールカウンセラー（臨床心理士）の派遣がすぐに決まったことは、CRTにとってとても心強いことでした。最終日はCRTとスクールカウンセラーとの統合チームで活動しながら引継ができました。特に最終日（6月13日（月））は、CRTは隊員を7人しか確保できませんでしたので、スクールカウンセラー7人の派遣がなければ、授業再開に十分な態勢で臨むことができませんでした。この場を借りて、深くお礼申し上げます。

CRTは6月13日（月）をもって活動を終了し、その後は派遣スクールカウンセラー（臨床心理士）により、こころのケアがなされております（最初の週は約7人派遣）。なお、精神保健福祉センター所長は、学校・県教委への助言のため、その後も現地に出向きました。

◆表 スクールカウンセラーの派遣人数

6月13日～18日	毎日7～8人
6月20日～24日	毎日3～4人
6月27日～7月1日	毎日2～3人
7月4日～8日	毎日2人
7月11日～22日	毎日1人
夏休み中は変則配置	
9月1日～	週1. 5日

### 出動 6月10日（金）

10:50 県教委より河野所長へ第1報。続いて、CRT情報センターへ派遣依頼。

### 1日目 6月10日（金） 隊員11人

（精神科医2人、臨床心理士3人、精神保健福祉士3人、看護師1人、その他2人）

13:40 河野隊長他1到着（TF01“危機対応”）。学校側と協議

14:00 職員会議同席 ※TF：タスクフォース

隊員 2 人（**TF07** “個別相談”）は個別面接開始  
15:00～17:00 緊急（1 回目）記者会見（校長、**TF01** 河野隊長）  
**TF07** は病院訪問  
18:00 **CRT** ミーティング（隊員11人） **TF09** “補助業務” が準備（以下、省略）  
**TF07** は病院訪問  
19:00～20:40 緊急保護者会  
・校長説明の後、質疑応答  
・**TF01** 河野隊長よりこころのケアについて説明の後、質疑応答  
・終了後 **TF06** “ケア統括” で簡単な相談対応（保護者 3 ケース）  
21:00～22:30 2 回目記者会見（校長、**TF01** 河野隊長）。取材対応。  
23:30～00:45 **CRT** ミーティング（隊員11人）  
緊急時の対応のため、河野隊長、広岡副長他 1（計 3 人）が学校に泊まり込み、  
他の隊員は学校を出る。  
00:45～02:00 学校側と協議（**TF01** 河野隊長）  
02:00～04:00 資料作成（**TF01** 河野隊長）

## **2 日目 6 月 11 日（土）** 隊員 10 人

（精神科医 2 人、臨床心理士 3 人、精神保健福祉士 2 人、看護師 1 人、その他 2 人）  
07:50 学校と協議（河野）  
09:30 **CRT** ミーティング 本日は、下記タスクフォースにて活動。  
**TF01** “危機対応” …河野隊長他 1；全体指揮、危機管理支援、報道対応  
**TF06** “ケア統括” …広岡副長他 2；こころのケア統括、教師サポート、電話対応  
**TF07** “個別相談” …稲野副長他 1；個別面接  
**TF** “訪問相談” …隊員 3；病院訪問（**TF09** “補助業務” は必要時編成）  
10:00 職員会議同席（**TF01**、**TF02**） **TF07** と **TF** “訪問相談” は個別面接や病院訪問  
2 日間で、入院中の生徒全員の面接を実施。  
12:30 **CRT** ミーティング  
13:10 **TF** に別れて教師と協議、教師の集団セッション。教師事情聴取等同席（5 人）  
14:00 文書作成等（**TF01**）  
15:00 電話相談対応（**TF07**）（1 人） 15:50 個別面接（**TF06** と **TF07**）  
16:00～17:17 3 回目記者会見 校長、河野隊長（**TF01**）  
17:20 対策会議（マスコミ同席） 並行して **CRT** ミーティング  
19:30 隊員 6 人学校を出る。個別面接、教師面接（**TF07**）  
21:00 **CRT** ミーティング（4 人）  
21:20 隊員全員学校を出る。

## **休止日 6 月 12 日（日）**

**CRT** は活動を休止しました。スクールカウンセラーへの引継が行われました。  
（精神保健福祉センター河野所長立ち会い）

## **3 日目 6 月 13 日（月）** 隊員 7 人、スクールカウンセラー（SC）6 人

（**CRT**：精神科医 2 人、臨床心理士 2 人、精神保健福祉士 2 人、看護師 1 人）  
（スクールカウンセラー：臨床心理士 7 人、うち 1 人はコーディネータ）  
本日に限り、**CRT** の指揮下でスクールカウンセラー 6 人も活動

7:30 集合、CRT・SCミーティング

本日午前中は以下の6つのタスクフォース（TF）に別れて活動することに。

**TF01** “危機対応” … CRT 2人（河野隊長他1） （**TF09** “補助業務” は必要時編成）

**TF** “ケア調整” … CRT 1人＋スクールカウンセラー1人

**TF** “3年1組” … CRT 1人＋スクールカウンセラー1人

**TF** “3年2組” … CRT 1人＋スクールカウンセラー1人

**TF** “学年会場” … CRT 1人＋スクールカウンセラー1人

**TF** “保健室等” … CRT 1人＋スクールカウンセラー2人

7:45～7:55 職員朝礼同席（CRT）

8:30 TFに別れて活動開始 3年1組と2組に専門家入る。

9:15 3年生学年集会（専門家同席） 保健室や図書室に専門家待機

9:50 2年生学年集会（ ” ） ”

1年生学年集会（ ” ） ”

11:00～11:40 臨時（4回目）記者会見（公民館） 校長、河野隊長（**TF01**）

12:30 CRT・SCミーティング 午前中の状況の集約。

個別ケースやクラスの状況の検討。午後のTF編成を下記に決定。

**TF01** “危機対応” … CRT 2人（河野隊長他1） （**TF09** “補助業務” は必要時編成）

**TF06** “ケア統括” … CRT 1人（廣岡副長）＋スクールカウンセラー1人

**TF** “保健室等” … CRT 3人（稲野副長他2）；1組2組以外の3年クラスと保健室

**TF07A** “個別相談1”（相談室1）… CRT 1人＋スクールカウンセラー1人

**TF07B** “個別相談2”（相談室2）…スクールカウンセラー2人

**TF07C** “個別相談3”（相談室3）…スクールカウンセラー2人

16:00 夜のTF編成変更

**TF01** “危機対応” …河野隊長他 （**TF09** “補助業務” は必要時編成）

**TF06** “ケア統括” …廣岡副長他

**TF08** “教師対応” …稲野副長他

学年別職員会議；**TF06** が3年会議同席、**TF08** が1年会議同席。

18:00～20:00 5回目記者会見 校長、教育政策課長、河野（**TF01**～20:30）

20:00～21:15 職員会議へCRT・SC・保健師出席

21:15 CRT・SCミーティング。スクールカウンセラーは引きあげ。

21:20～22:00 廣岡副長、稲野副長が教師対応

22:30 CRT 隊員の分かち合い

22:50 撤収

### 不安の中での活動

2003年8月にスタートして以来、今回で8回目の出動となりましたが、7回目までとは比較にならないほど衝撃的な事案でした。実は、連日全国のトップニュースになるような学校危機事案は、山口県では10年先のことだろうと思っておりましたので、“身震い”しました。**CRT** としても「果たして対応できるのだろうか」という不安を抱えての出動であり、まさに「総力戦」となりました。

### 心残りはいろいろ

**CRT** は、3日間という時間的制約と限られた人数の中で、優先度が高く、かつ、3日間で可能なことに絞って支援をします。どれを行い、どれを「しない」のかの見極めを指揮担当隊員が行います。ですから、毎回「あれもしなかった。これもしなかった」という想いは残るものです。

入院中の生徒のところには **CRT** が直接訪問しましたし、月曜日に登校した生徒には **CRT** とスクールカウンセラーがいろいろなアプローチをしました。しかし、自宅にいて学校に来ることができない生徒へのアプローチが全くできなかったことが心残りでした。

このように、できなかったことはたくさんあるのですが、**CRT** の能力の範囲のことはおおむね実施できたと考えております。

### ボランティア中心での限界を感じた出動でした

**CRT** 隊員は当時15人おり、今回そのうち11人が出動しました。県職員（精神保健福祉センター）2人を除く13人は民間の医療機関等に勤務する専門職で、出動の場合は自分の仕事を置いて支援に駆けつける、いわば“消防団”のようなものです。**CRT** スタート当時は、最大で年1～2回の出動を想定していたのですが、2年たたないうちに8回も出動したため、隊員の職場や家庭への影響は相当のものでした。

また、**CRT** は3日間限定ですが、**CRT** 委員長であるセンター所長が、**CRT** 撤収後もしばらくの間はセンター所長として学校や県教委へのアドバイスのために現地へ出向していることや、**CRT** の中核隊員である臨床心理士3人が、今度はスクールカウンセラーの立場で現地に引き続き派遣されていることもあり、約1ヶ月間 **CRT** は依頼があっても出動できない状況となりました。公式に「出動できない」ことを表明したのは今回が初めてです（7月25日から再開）。

隊員は事件の大きさを自覚して、各自相当な無理をして出動しました。その分、今後もこのペースで出動すると、**CRT** が継続できなくなる恐れが今回の出動で現実化してきました。